

「第 48 回国臨協関信支部学会 学会賞選考報告」
国臨協関信支部学術委員会副委員長 山本 伸晃
(NHO 東京医療センター 臨床検査科)

令和 2 年 9 月 5 日 (土) に開催を予定しておりました「第 48 回国臨協関信支部学会」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により非集合型学会として開催されました。

学会賞選考委員会も国臨協関信支部常任理事会での決定に基づき、例年とは異なる形式で国臨協関信支部表彰規程により学術奨励賞ならびに学会特別賞、学会新人賞の選考をしましたのでご報告させていただきます。

1 次選考は登録演題 14 題を国臨協関信支部学術委員会の全員で抄録を査読し、10 項目を 5 段階で評価致しました。2 次選考は林元久委員長 (NHO 宇都宮病院)、小川佳亮微生物部門長 (国立成育医療研究センター)、白井洋平血液部門長 (NHO 高崎総合医療センター)、国臨協関信支部より吉田茂久副支部長と私を含めた 5 名が学会賞選考委員会となり、1 次選考の評価を基に、学術奨励賞候補 3 題、学会特別賞候補 4 題、新人賞候補 3 題を選出しました。

最終選考は各施設に配布された発表 PowerPoint を視聴し、抄録内容との整合性など 5 つの最終評価項目を審査し 2 次選考で選出された演題を再評価採点し、令和 2 年 9 月 15 日 (火) に Web 会議にて選考委員会が開催され各賞の最終決定をいたしました。

新人賞は「メトトレキサート自動希釈測定試薬の基礎的検討」を発表された、国立がん研究センター中央病院の佐藤南菜海技師を選出しました。メトトレキサートの血中濃度測定は副作用予防薬の投与量、投与回数決定に重要な役割を果たし、且つ時系列で測定していくため速さと正確さが求められます。自動希釈測定試薬を院内導入することで結果報告時間の短縮が診療支援に繋がるのはもちろんのこと、短縮した時間をどのように活用していくのか、更なる発展を期待する発表でした。

学会特別賞は「がん遺伝子パネル検査における取り組み～臨床検査技師としての活動報告～」を発表された、国立がん研究センター東病院の説田愛弓技師を選出しました。施設特性を鑑みても非常に優れおり、各施設が検査説明、治験への積極的介入のきっかけになるような発表で特別賞に値すると思います。がんゲノム医療コーディネーターは臨床検査技師に期待されるコーディネーター業務のひとつとして注目されています。遺伝子検査に精通していることを強みに、多職種と連携を取りながら患者・家族への補助説明や意思決定支援など、がんゲノム医療コーディネーターの一員として専門性が発揮できます。がんゲノム医療の実用化に必要な医療従事者として多くの検査技師が関与されていくことを望みます。

学術奨励賞は、残念ながら国臨協関信支部表彰規程の選考基準に準ずる発表がなく「該当なし」としました。

変則的な学会開催の中、エントリーされた皆様方に感謝申し上げます。

受賞されました方々ならびに施設の皆様、おめでとうございます。